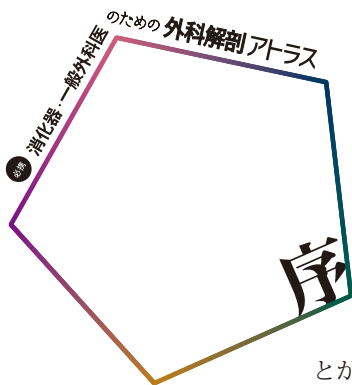




「手術」臨時増刊号「必携 消化器・一般外科医のための外科解剖アトラス」をお届けします。本臨時増刊号では消化器・一般外科医が扱うこ

とが多い5領域（食道・胃，肝胆膵，大腸，肛門疾患・直腸脱，鼠径部・腹壁

癒痕ヘルニア）の術式について，安全かつ確実な手術を行うために必要な外科解剖を，それぞれの領域のエキスパートの先生方にご解説いただきました。

「良い手術」を行うためには，局所解剖の正しい理解が必要不可欠であることはいうまでもなく，私たち外科医にとって，手術のための局所解剖は学会や誌面において常にホットなトピックであり続けます。人体のつくりは大昔から変わらないにもかかわらず，画像診断の進歩，新しい術式やロボット支援手術などの新しい手術アプローチの出現などによって，外科局所解剖の理解には常に新しい発見があり，外科医の興味を惹きつけてやみません。

本臨時増刊号では，悪性疾患と良性疾患の両方の代表的な術式のみならず，新しい考え方に基づく術式に関しても解説いただきました。局所解剖の誤った理解は，術後の合併症や機能障害につながるだけでなく，悪性疾患の手術では腫瘍学的な治療成績の悪化にもつながります。裏返せば，正しい局所解剖の理解はより優れた術式の開発につながり，悪性疾患の手術であれば再発低減や生存率向上にもつながる可能性があるといえます。

発生学的な事項や取扱い規約，ガイドラインの内容も踏まえたうえで，写真やイラストをふんだんに使用した本臨時増刊号の解説は，これから手術を学ぶ若手外科医のみならず，上級のベテラン外科医にとっても学びの多い内容になっているのではないかと考えます。本臨時増刊号の内容が読者の皆さまの診療，教育，研究に役立つことを願うとともに，ご解説をいただいた執筆者の先生方に感謝を申し上げまして「序」とさせていただきます。

2024年3月「手術」編集委員

石原 聡一郎

東京大学腫瘍外科教授